



栗東市教育研究発表大会

令和5年2月16日(木)に、第20回栗東市教育研究発表大会を開催しました。3年ぶりに集合しての開催ができました。

開会行事では、主催者を代表して、安土憲彦教育長から開会のあいさつがありました。教育長より、今年度の教育奨励事業において、たくさんの先生方からの教育実践が寄せられたことについて、各校園の保育教育に対する熱意や意欲への賞賛と激励がありました。そして、最優秀賞とフレッシュ大賞の受賞者に賞状授与が行われました。



教育研究奨励論文発表

「自分なりの考えをもつことができた」と実感できる算数科の授業づくり
～進んで自力解決に向かうための手立て～

＜栗東市立葉山小学校 教諭＞ 堀井 留里

【参加者からの声】

- ・日頃の子どもの様子から、自分の考えを相手に伝えることが苦手な生徒が多いことにとても共感しました。堀井先生の論文を参考に、生徒たちが自分の考えに自信を持って言えるように私自信も普段の授業からミニテストを取り入れたりしてみたいと思いました。
- ・「できる、わかる」を自力解決場面の前に感じさせることは、本当に大切だと思います。学びのスタートラインに立たせること、見通しを持たせる工夫をまなばせていただきました。
- ・これまでの教員生活を経て感じた児童の困難さを、どのようにすれば解決できるのか、自分なりに仮説を立てて、検証している研究の組み立てが大変良かったです。また、この方策によってどのような姿を期待したのかという点を説明していたことも分かりやすかったです。

調査研究

通常の学級と通級指導教室をつなぐ実践(二年度)

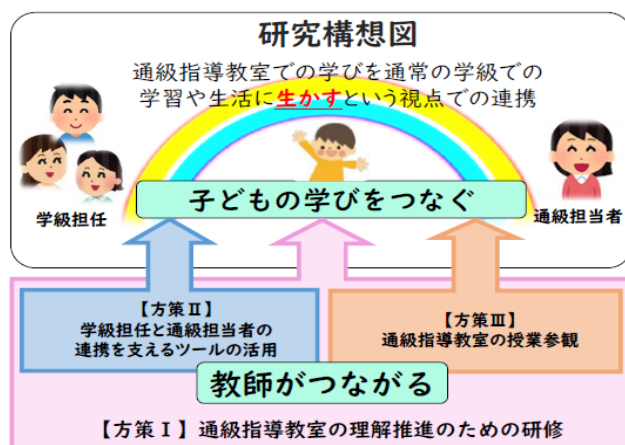
～「子どもの学びをつなぐ」「教師がつながる」視点から～

＜栗東市立教育研究所 研究員＞ 松田 愛

【調査研究の報告】

本研究では、通級指導教室での指導内容を通常の学級での授業や生活に生かしていくことで、通級による指導を受ける児童生徒の学びをつなげていくための担当者間の連携の在り方を提案します。

一年次に行った市内教職員の調査結果から、課題を解決するための3つの方策を考えました(右図の研究構想図参照)。その方策について、研究協力校において実施・検証しました。



方策Ⅰ：通級指導教室の理解推進のための研修

Ⅰ 方策の内容

通級指導教室に関する理解を推進していくことを目的として、研修の在り方について検討しました。

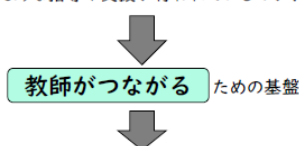
Ⅱ 結果および考察

通級指導教室が新設された学校をはじめ、4月に新しい教職員集団となったスタートの時期に、通級指導教室に関する理解を進めるための研修を行うことは重要であると考えます。通級指導教室の役割や目的などを全教職員が共通理解した上でこそ、通級による指導を受ける児童生徒をはじめ、特別な支援を必要とする子どもを学校全体で見守っていく組織と風土ができあがると考えます。

方策Ⅰを通して…

全ての教職員が通級指導教室について正しく理解すること

どのような場所か？
どのような児童・生徒が指導を受けているのか？
どのような指導や支援が行われているのか？



方策Ⅱ：学級担任と通級担当者の連携を支えるためのツールの活用

Ⅰ 方策の内容

業務多忙な中、学級担任と通級担当者が直接話す時間の確保は容易ではない現状があります。ゆえに、両者の連携を支えることを目的として、ツールの有効な活用を検討しました。検討したツールは、通級担当者が通級による指導を終えた後に学級担任に発信している通信と、学習用端末（クロームブック）です。

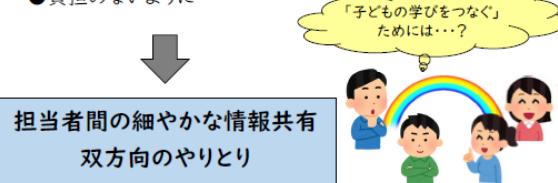
Ⅱ 結果および考察

通信やクロームブックの活用を通して、学級担任が通級指導教室での学習内容や子どもの様子を把握することが可能になりました。ツールを有効に活用することで、担当者間が双方向でやりとりしながら、細やかな情報共有を行うことが「教師がつながる」ために欠かせない連携の在り方であると考えます。

方策Ⅱを通して…

通信やChromebookは、連携を支えるためのツール

- ツールを使用する目的を明確にする「何のために？」
- 児童生徒の実態に応じて
- 負担のないように



方策Ⅲ：通級指導教室の授業参観の推奨

Ⅰ 方策の内容

研究協力校に通級指導教室の授業参観を推奨し、その効果について検証を行いました。

Ⅱ 結果および考察

通級指導教室での学びを通常の学級での学習や生活に生かしていくために、学級担任が通級指導教室の授業参観を行うことは、大変有効です。そして、学級担任は、「子どもの学びをつなぐ」ために参観での学びを「生かす」「取り入れる」という視点をもって参観を行うことが重要です。

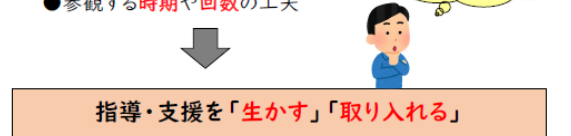
また、校内研究での通級指導教室の授業公開を行うことで、学校全体で一丸となって通級指導教室に関する知識と理解を深めていくことができるという成果も得られました。

方策Ⅲを通して…

通級指導教室の授業参観を通して

理解 関心 発見 子どもに合った指導・支援
効果を実感 担当者間の連携と役割

- 参観の目的を明確にもつ
- 学校全体の体制づくり
- 参観する時期や回数の工夫



今後に向けて

特別支援に関するニーズが高まる中、通級担当者の特別支援に関する専門性の高い知識、指導や支援の方法から学ぶ機会は大変貴重です。通級担当者による研修や通級指導教室の授業参観の機会を有効に活用して、全教職員の特別支援に関する幅の広がり、専門性の向上を目指していきたいものです。

また、「教師がつながる」ことを通して、通級による指導を受けている児童生徒が安心して学校生活を過ごすとともに、通級指導教室で身につけた力を通常の学級で発揮できるように環境を整えていくことが教師の役割であると考えます。

最後になりますが、研究協力校をはじめ、市内通級担当者の皆様の熱心なご指導と温かいご支援に感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

非認知能力を子どもに育み、伸ばすために

＜講師＞ 岡山大学教育推進機構 准教授 中山 芳一 氏

本市が進めている「栗東子育て教育 Next プロジェクト」に関わって、「非認知能力」についてわかりやすくご教示いただきました。

保育・教育現場で活用できる非認知能力には、

- ①「自分と向き合う力（自制心、忍耐力、レジリエンスなど）」
- ②「自分を高める力（意欲・向上心、自信・自尊感情、楽観性など）」
- ③「他者とつながる力（コミュニケーション力、共感性、社交性・協調性など）」

の3つのグループがあることを教えていただきました。また、それらは子どもが自分自身の意識で自ら伸ばす力であることや、保育・教育現場でチームとして取り組むことが重要であることについてもお話いただきました。



【参加者からの声】



非認知能力を育てることが、新たなことがふえるのではなく、今までやってきたことをいかに焦点づけて発想の転換をし、継続し習慣化していくことが重要だと思いました。



非認知能力の育成が人格形成という言葉に納得がきました。また、非認知能力は押し付けでは伸びないため、教師が意識づけして自分の意識で伸ばしていくものであるという点で、どんな意識づけが非認知能力の向上に有効か、校内研究での研究課題に設定して学校ぐるみで研究推進してもおもしろいのではないかと思います。

非認知能力の育成において、児童自身が自らの意識に繋がれるかが大事なので、日々の中で意識づけを働きかけることを大切にしたいです。また、教師自身が非認知能力における価値観、意識を大切にし、学校全体として取り組んでいくことが大切だと感じました。

栗東市が進めている NEXT プロジェクトに直結する話題であり、たいへん学びが大きかったし、今後に生かしていきたいという内容ばかりでした。特に、どのように「意識」させて行動化し自信に変えていくかについてのピラミッド型の資料が分かりやすかったです。

また、脳科学の視点からも、非認知能力を育むことが、結果的に認知能力も高めるという点が興味深かったです。



教育研究奨励事業審査結果



学校園名	種別	氏 名	研 究 主 題	賞
治田東幼稚園	共同研究	代表 坂下里絵 草間一花	『やってみようの心を育む』	優秀賞
治田幼稚園	共同研究	代表 生源寺桐世	のびのびと身体を動かし、自分なりに挑戦しようとする 子どもの育成を目指して ～基本的な身体の動きを経験できる環境を探る～	優秀賞
金勝小学校	個人	堀内富美子	だれもが「書ける」をめざして ～国語科におけるワークシートの工夫～	フレッシュ大賞 優秀賞
葉山小学校	個人	堀井留里	「自分なりの考えをもつことができた」と実感できる 算数科の授業づくり ～進んで自力解決に向かうための手立て～	最優秀賞
葉山東小学校	個人	小幡 卓	互いに認め合い、居心地の良いと思える 学級づくりを目指した学級実践 ～ユニバーサルデザインの観点から～	奨励賞
葉山東小学校	個人	柏谷優芽	「みんなが主役」子どもたちでつくる学級を目指して ～特別活動の視点から～	奨励賞
治田小学校	個人	石山大地	字形を整えて書くことが難しい児童への支援についての一考察 ～一年生の児童に焦点をあてて～	奨励賞
治田東小学校	個人	松本将希	子どもの自己肯定感・自主性が高まる話し合い活動 ～切実感・共感・納得感から生まれる自己表現をもとに～	奨励賞
治田西小学校	個人	岡本 将	「正しく整えて書く」ための課題解決に向かう書写教育 ～持ち方・姿勢・点画の確認からの鑑賞タイムを通して～	奨励賞
大宝東小学校	個人	梅原悠貴	目的意識をもって学びに向かう子どもの育成 ～学び合う喜びを実感できる算数科の創造～	奨励賞
大宝西小学校	個人	井上裕司	人権文化の満ちた学校にするために ～一人の人間としての「生き方磨き」から始めよう～	奨励賞
栗東中学校	個人	明石勇氣	話し合い活動の定着についての一考察 ～栗東中学校話し合い活動育成プログラムの構築～	優秀賞
栗東西中学校	個人	安井芽久美	不登校傾向の生徒への支援	奨励賞

来年度に向けて

教育研究奨励論文に応募されたこと、就学前保育教育内容研修や教職員研修講座、教育研究発表大会にご参加いただいたこと、研修講座や研究大会で発表いただいたこと等、どれもが保育士、教職員としての資質の向上につながることであります。日々いそがしい中だったと思いますが、研修・研究に取り組まれたことが、きっと皆さんのこれからの保育教育活動に生かされると願っています。

毎年、教育研究所の運営委員等の意見を参考にさせていただき、内容、方策等を模索して企画しています。教育研究所ができる支援は限られていますが、各所属における日々の同僚とのコミュニケーションの中から生まれてくるもの、園、校内研の推進、先輩から後輩への言葉かけ等を大事にさせていただきながら、教育研究所の事業にご参加いただければと思います。

来年度も、ご理解、ご協力いただきますよう、よろしくお願いいたします。

来年度も
よろしくね!

栗東市立教育研究所 〒520-3088 栗東市安養寺一丁目13-33 栗東市教育委員会事務局内
TEL 077-551-0130 ・ FAX 077-551-0149 E-mail kenkyusho@city.ritto.lg.jp

